

海底への影響を緩和する底曳網漁法の開発

漁業生産・情報工学部

研究の背景・目的

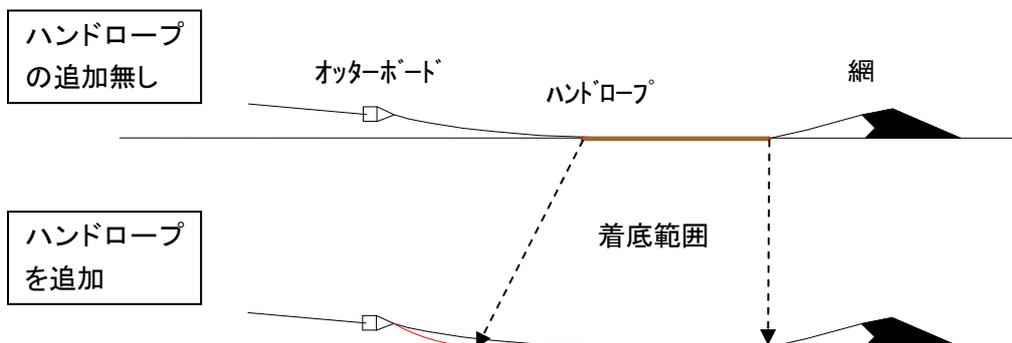
1. 底曳網が海底環境に与える影響が国際的に懸念されている。
2. 「(海山等の生態系に悪影響を及ぼす底びき網漁業を含む)破壊的な漁業活動の暫定的な禁止の検討を求める」こと等を内容とした国連決議が2004年に採択された。
3. 網の入口を横方向に広げるのに使われるオッターボードは海底に接する部分の圧力が他の部位(網・ロープ等)に比べ特に高く、そのぶん海底環境に及ぼす影響が大きいと考えられる。
4. オッターボードを海底から離して曳網することにより、底曳網が海底環境に与える影響の緩和を図る。

研究成果

ハンドロープ(オッターボードと網をつなぐロープ)は通常着底しており、オッターボードの間にある生物を網口に集める効果を有する。しかしオッターボードが海底から離れるとハンドロープの一部も同時に離底し、漁獲量が大きく減少する可能性がある。そこで、ハンドロープに並行して別のロープを取り付け、ハンドロープをたるませて試験操業を行い、オッターボードの離底時にもハンドロープの着底を維持する曳網方法を開発した。

波及効果

オッターボードが海底環境に与える影響が問題となる水域において、海底環境に与える影響を緩和するとともに漁獲量を大きく損なわずに操業することが期待できる。



オッターボードを離底させたときのハンドロープ着底範囲のイメージ

(漁具・漁法グループ:山崎慎太郎・藤田薫・高山剛)